



# 高山 有 さん

## 大野山保育園長／栄養士 (身延町)



子育て中は、親の誰もが様々な不安や孤独など、一人では抱えきれない気持ちを抱きます。  
今回は、保育園に勤務する傍ら栄養士として、子育てに奔走する保護者を応援しようと、  
テイクアウト専門のカフェをオープンした高山 有さんにお話を伺いました。

### まず始めに自己紹介をお願いします。

高山：大野山保育園で園長をしている高山有です。今は保育の仕事に携わっておりますが、私はもともとアナウンサーを目指していました。食べるのが好きな両親のもとに育ち、私自身も食べることはもちろん、作ることに興味がありました。アナウンサーになって、全国の美味しいものをテレビをご覧になる皆さんに紹介したいと夢見ていました。高校卒業後は東京の大学に進学し英語を学び、一旦はテレビ制作会社で働いていましたが、結婚を機にこの地元に戻ってきました。その後2人の子どもに恵まれましたが、当時、園長であり、栄養士でもあった母の代わりになる人がいないというのがきっかけで、母親と同じように保育士と栄養士の免許を取得し、家業を継ぎました。最初は、両親の手伝い程度の関わりでしたが、園で子どもたちと接したり、研修に参加する中で徐々に子どもの成長や発達について知ることが、興味深く楽しいと感じるようになりました。今は園長として忙しい日々を送っていますが、同時に非常にやりがいを感じています。

### 生まれも育ちも身延町とのことですが、高山さんにとって身延町の魅力とはどんなところでしょうか。

高山：やはりここにしかない自然環境だと思います。保育園の隣に裏山がありますが、平成29年に園独自の地域ボランティアの方々と一緒に、山登りができるよう整備をしました。子どもたちに、故郷の景色として見せてあげたいという想いと、山の保育（遊び）を通して幼児期に柔軟な四肢の動きや体幹を鍛える、というねらいがありました。そして、実際に子どもたちが登ると、そこには見たこともないような植物との出会いや子どもたちの想像力を掻き立てる景色が広がり、様々な自発的な遊びが展開されていきました。遊びから学ぶという点で子どもの成長にとって欠かせない場所となっています。私自身も自然豊かな故郷が



あることへの幸せを実感できるようになってきました。ここで生まれ育つ子どもたちに、身延町を、自分の誇れる故郷にしてあげたいという想いがあります。子どもたちとの会話を通して、子育て世代の方々にも自分の住んでいる町にも誇れるものがあること、語れるものがあることを知ってもらえたら嬉しいですね。

### 保育園の敷地内にカフェを開店されたそうですが、その経緯についてお聞かせください。

高山：保育園の事務所から、お母さん方が疲れ切った表情で子どもを送り迎えする姿をよく見かけます。少しでも何かできることはないかと日々感じていました。そこで、誰でも気軽に立ち寄れてほっとできる時間を提供できたらと思いカフェを始めました。言葉を介さずとも、忙しい毎日を送るお母さん方に「おかえりなさい」「いってらっしゃい」と声を掛けてあげられるような場にしたいと思いました。また、もともとこの地域には住民の方同士で落ち着いた会話ができるような場所がなかったこともあり、カフェを通じて親子支援だけでなく地域支援にもつなげていきたいという想いがありました。カフェを始めてからは、保護者だけでなく、地域の方や中学生になった卒園児も足を運んでくれるようになり、一つのコミュニティになれる兆しを